

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-07-28

なし

(発行年 / Year)

1910



6818



民法

第一編 總則

(理由) 本編ハ既成法典人事編中ニ取レリ乃チ第一節ノ權利ノ章有ト爲レ何人カ權利ノ主格ナルコトヲ得ルカヲ規定シ第二節ヲ能力ト爲シ其權利ノ主格ナル人カ如何ナル條件ヲ以テ其權利ヲ行使スルコトヲ得ルカヲ示シ第三節ヲ住所ト爲シ人ノ生活ノ本據ヲ定メ第四節ヲ失踪ト爲シ人ノ踪跡分明ナラサル時ノ處置ヲ明カニセリ

既成法典中國民分限及ニ身分證書ニ關スル規定ハ之ヲ削除セリ蓋シ此等ノ事ハ主トシテ民法ニ關スルノモノナラス種々手續ニ關スルモノ多キヲ以テ之ヲ特別法ニ讓ルヲ至當トシタレハナリ

第一章 人

(理由) 本編ハ既成法典人事編中ニ取レリ乃チ第一節ノ權利ノ章有ト爲レ何人カ權利ノ主格ナルコトヲ得ルカヲ規定シ第二節ヲ能力ト爲シ其權利ノ主格ナル人カ如何ナル條件ヲ以テ其權利ヲ行使スルコトヲ得ルカヲ示シ第三節ヲ住所ト爲シ人ノ生活ノ本據ヲ定メ第四節ヲ失踪ト爲シ人ノ踪跡分明ナラサル時ノ處置ヲ明カニセリ

既成法典中國民分限及ニ身分證書ニ關スル規定ハ之ヲ削除セリ蓋シ此等ノ事ハ主トシテ民法ニ關スルノモノナラス種々手續ニ關スルモノ多キヲ以テ之ヲ特別法ニ讓ルヲ至當トシタレハナリ

第一節 私權ノ享有

(理由) 既成法典人事編第一章ニハ私權ノ享有及ヒ行使ト曰ヘリ今其行使ノ省キタルハ之ヲ別節ニ規定スルヲ以テ優レリトシタレバナリ

第一條

(理由) 既成法典人事編第一條ニハ權利ノ享有ト行使トヲ併セテ規定セリ而シテ其前者ニ言ヘル凡ソノ人ハ私權ヲ享有シテ文字ハ聊カ贅言ニ屬スルヲ以テ今之ヲ省キタリ又同第二條ニハ兩(三)澳(二)二(東)(三)西(二)九(ウ)エリヒ(九)ウラウブシデン(五)三項等諸國ノ法典ニ規定セルカ如ク一般ニ胎兒ノ利益トナルヘキ場合ニ於テハ之ヲ既生兒ト同視スルニ雖モ斯ク一般ニ之ヲ規定スルニハ往々意外ノ結果ヲ生シ頗ル適用ニ苦シム虞アリ因テ今佛七二五九〇六伊七二四一七四一〇五三等ノ規定及ヒ獨白兩國ノ民法草案ニ倣ヒ相續遺贈損害賠償等ニ關シ胎兒ノ權利ヲ認メ一般ニ既生兒ニ非サレハ權利ヲ享有スルコトヲ得サルモノトシヨリ(獨一)草七三二二七五六一九六四二項白草七四二七五五

第二條

(理由) 本條ハ既成法典ノ字句ヲ修正シタルニ過リス但法律ニ改メテ法令ト爲シタルハ憲法上命令ヲ以テ外國人ノ權利ヲ規定スルコトヲ得レハナリ

第二節 能力

(理由) 既成法典ニハ能力ニ關スル一般ノ規程ナク唯人事編及ヒ財產編ノ各處ニ其法規ヲ散在セルアルノ一面ニ未成年者ノ能力ニ至リテハ銷除ニ關スル法文ニ依リテ僅ニ之ヲ推知スルコトヲ得ルニ過キス今各種ノ無能力者ヲ本節中ニ列敘シ其能力ノ程度ヲ明カニセリ
本案ニ自治產未成年者ヲ除キタルハ本邦ニ於テ未タ其必要ヲ見ザルヲ以テナリ又刑事禁治產者ヲ除キタルハ改正刑法ニ於テ之ヲ認メタルコトヲ豫期シテナリ

第三條

(理由) 本條ハ既成法典ノ字句ヲ修正シタルニ過キス但私權ノ行使ニ關シテハ多數文字ヲ削除シタルハ第一民法ニ於テハ總テ私權ニ關スル規程ノミヲ掲ゲルト第二他ノ法令ニ於テ單ニ成年ト曰ヒタルトキハ解釋上民法ノ成年ヲ指シタルモノト認メサルヘカラサルト二因

第四條

(理由) 既成法典財產編第五百四十七條第二項及ヒ第五百四十八條第一項ニ據レハ暗ニ未成年者ハ一切ノ法律行為ヲ獨斷ニテ爲シ得ザルヲ原則トシ唯同第二百十九條第一項ニ據レハ未成年者ノ其獨斷ニテ爲シタル行為ヲ銷除スルコトヲ得ルモノトセルカ故ニ實際未成年者カ利益ノミヲ受クヘキ行為ハ之ヲ銷除スルコトヲ始メテ之ヲラサルヘシ殊ニ其法定代理人カ獨斷ニテ爲シ得ル行為ヲ未成年者カ

歸斷ニテ爲メタルトキハ、缺損ニ基テニ非サレハ之ヲ銷除スルコトヲ得ストトモカ故ニ(四五四八)一
 項此場合ニ於テハ未成年者ニ利益アル行爲ヲ銷除スルコトヲ得サルハ勿論ナリモ、是ニ由リテ之ヲ觀
 レハ既成法典ノ規定モ實際本文ヲ略同シテ結果ヲ生ズシト雖モ第一其原因ノ明カニスルノ必要ア
 ルノミナラス共細目ニ至リテ大ニ同シカラスモ、ナリアリ難ク或ハ舊既成法典ニ於テハ通常缺損ニ基テニ非
 サレハ銷除ヲ許ササルモ、缺損ノ有無ヲ斷定スルニ極メテ難ク或ハ法官ノ判斷其當ヲ失ヒ聽モスレハ
 相手方ヲ損害シ又ハ未成年者ノ保護ヲ全クサラシムルノ虞アリ故ニ今之ヲ廢シテ之ヲ聽モスレハ
 典ニ據レハ贈與ト雖モ親族會ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ受諾スルコトヲ得サルモノトセリ(八
 一九四)四號附五四七二項ニ然リト雖モ此等ノ財產上ノ能力ニ付テハ法律ハ財產上ノ利益ノミヲ較
 量シ若レ未成年者ニ利益アル行爲ナラシムルニ毫モ之カ取消ヲ許スノ理アラサルナリ故ニ負擔ナキ贈
 與ハ未成年者獨斷ニテ之ヲ受諾シタルモ敢テ之ヲ取消スコトヲ得サルモノトセリ

第五條

(理由) 本條ノ規定ハ既成法典ニ存セズ又外國ノ法文ニ此規定ヲ掲ケルモノ甚メカラス而
 モ其必要欲ヘカラスルコトハ取テ疑ヲ容レズ蓋シ未成年者ト雖モ條學其他ノ需要ノ爲メ多少ノ契
 約ヲ締結シ多少ノ財產ヲ處分スルノ必要アルニ論ヲ待タズ然ルニ若シ此等日需ノ行爲ニ付テ猶ホ一
 一法定代理人ノ同意ヲ得ザルニ非サレハ後日取消サルコトヲアリトセハ誰レカ安シク未成年者ト
 此等ノ取引ヲ爲ス者アラシヤ故ニ法定代理人ノ目的ヲ定メ又ハ之ヲ定メタルニテ處分ヲ許ササル財產

第六條

(理由) 一、既成法典ニハ商業及ヒ工業ニ付テ本條ニ類スル規定ヲ設ケルト雖モ是レ明カ致險ニ失ス
 ルノ極アルヲ以テ本案ニ於テハ汎ク營業トセリ
 二、既成法典ニ據レハ不動產ノ讓渡ニ關シテハ商業ヲ許サレタル未成年者ト雖モ普通ト未成年者ト
 其能力ヲ同シケルモノトセリ是レ近來學者ヲ大ニ非難スル所ナリ蓋シ商業ヲ營ムル許可ヲ得ズル
 未成年者ハ其商業ヲ爲メニ不動產ヲ抵當トシ又ハ買入スルコトヲ得ヘシ是レ恰モ直接ニ讓渡スコト
 ハ之ヲ許サスト雖モ間接ニ之ヲ爲スハ可ナリト曰フト一般頗ル條理ニ合ハサルモノト謂フヘシ是レ
 本案ニ於テ未成年者ハ其許サレタル營業ニ關シテハ全ク成年者ト同一ノ能力ヲ有スルモノトシタル
 所以ナリ

三、本條第二項ノ規定ハ既成法典ニハ之ノトモ其必要ナルコトハ敢テ喋クヲ須ササルカ如シ蓋シ父
 母後見人等ハ未成年者カ既ニ其職業ヲ營ムルニ必要ナル智識ヲ有スルモノト信シ之ヲ許シタルモ
 其未成年者蓋シ其資本ヲ遊蕩ニ費シ又ハ常ニ商標ヲ失ヒ勤モスレハ損失ヲ被ムルカ知キコトアラハ

第七條

速ニ之ヲ防遏スルコトヲ得シムルニハカラス是レ本條第二項ノ必要アル所以ナリ

(理由) 一、既成法典ニハ時時本心ニ復スルコト有ルモ本條ニ於テハ之ヲ削除セリ是レ他
ナシ既ニ心神喪失ノ常況ニ在ルト云ヘル以上ハ心神ノ喪失ヲ唯通常ノ狀況ナルトキ以テ足レリト
スヘキト明カナレハナリ蓋シ喪心者ニシテ一切本心ニ復スルコトナシトモ其行為ハ禁治産キ
モ皆當然無効タルヘキカ故ニ特ニ其治産ヲ禁ズルノ要ナレ唯時時本心ニ復スルコト有ル場合ニ於テ
ノ特ニ其治産ヲ禁ズ以テ一ノ行為カ其喪心中ニ爲シタルモノナルヲ解キ本心ニ復シタル間爲シ
タルモノナルヲニ付生スヘキ管限ヲ未然ニ防テ要アルナリ而シテ其本心ニ復スルコト有ルト否
トノ間ハ其治産ヲ禁ズル所以者ハ他ナシ其本心ニ復スルコト有ルヘキヤ否ヲ豫知スルコト難
ト後見人ヲ選ビ又第三者ニ告知スル爲メニ裁判上ニ其病ヲ公認スルノ必要アリ而シテ之ニ禁治産ノ
制ヲ利用スルノ簡便ナルニ如カサルコトヲ以テナリ

二、禁治産ヲ請求スルコト得ル者ノ中ニ本條後見人保佐人ヲ加ヘタルハ時時本心ニ復スル喪心
者ハ自ラ禁治産ノ必要ナルコトヲ悟リ之ヲ請求セント欲スルコトアルモ未成年者ノ禁治産ヲ宣告ス
ヘキ場合ニ於テハ後見人准禁治産者ニ付テハ保佐人カ尤モ其必要ヲ通知スヘキ地位ニ在ルトニ因

三、既成法典人事編第二百二十三條第二項ノ原裁判所ニ文字ヲ削リタルハ是レ專ラ裁判所ノ管轄

ニ關スルモノニシテ手續法ニ屬スルヲ以テナリ(二十三年十月八日法一〇四號二〇ニ之ヲ定メタ
リ)

四、同條第二項モ亦手續法ニ屬スルヲ以テ之ヲ削レリ

第八條

(理由) 本條ハ全ク既成法典人事編第二百二十四條第一項ニ同シ而シテ其第二項以下ヲ削リタル理由
ハ後見ニ關スル規定ハ總テ親族編ニ掲グルコトシタルヲ以テナリ

第九條

(理由) 一、既成法典人事編第二百三十條ニハ裁判官、或ハ日、リ、無能、力、者、ト云ヘリ然レトモ是レ
裁判ノ效力ニ關スルモノナルヲ以テ之ヲ手續法ノ規定ニ讓リ茲ニ明言セズ

二、無能力者トスト曰フモ其無能力ノ程度判然セス從テ次項ノ規定ヲ要スルニ至レリ故ニ寧ロ本文
ノ如ク改ムルヲ以テ妥當トス

三、同條第三項ヲ削除シタル理由ハ未ダ禁治産ノ宣告アラサル間ハ普通ノ原則ニ從ヒ意思ノ有無ニ
依リテ行為ノ有效無効ヲ分アラ以テ適當トス蓋シ同レク精神ノ錯亂セル者ノ行為ニシテ一ハ後日

禁治産ヲ受ケ一ハ終ニ禁治産ヲ受ケサリシニ因リ差等ヲ設クルノ理アラサレハナリ殊ニ原文ニ據レ
ハ行為ノ當時ニ於テ喪心ノ明確ナルトモ餘餘裁權ヲ行フコトヲ得ルモノトモカ故ニ後日禁治産
ヲ受ケルニ至リタル重症ノ癡癩者ノ行為ニ單ニ之ヲ削除スルコトヲ得ルニ止マリ終ニ禁治産ヲ受ケ

ルノ必要ヲカリシ經程ノ範圍者ノ行為ハ却テ全ク無效トナルノ奇觀ヲ呈セヘシ是レ此原文ヲ削除スルノ愈レルニ如カスト信シタル所以ナリ

四 禁治産ヲ設ケザル範圍者ニ關スル規定ヲ全廢シテ理由ハ元來佛白蘭等ノ諸國ニ於テ禁治産者ノ外別ニ寛濶病院ニ在ル者ハ能力ヲ定ムルノ必要ヲ認メタルハ全ク禁治産ノ制共宜レキヲ得サルニ職由セシムルハアラズ然ルニ今新ニ法典ヲ編纂スルニ當リ故テ禁治産ノ制ヲ不完全ニシ以テ禁治産外ニ別個ノ制度ヲ設ケテ之ヲ稱フノ必要ヲ生シムルノ不可ナルハ固ヨリ言フヲ待タズ若シ禁治産ノ制ニシテ共宜レキヲ得ハ禁治産外ニ之ヲ並行スヘキ別個ノ制度ヲ設ケルハ聊カ蛇足ニ類スルモノアルヲ恐レ唯夫レ範圍者ノ事實ニ於テ自ラ其財産ヲ治ムルコト能ハサルガ爲メニ特ニ管理人ヲ置ク之カ職分ヲ定メ又不法ノ監視ヲ防遏シ狂人カ公安ヲ害スルニ危險ヲ豫防セシムルニ適當ノ處置ヲ施スカ如キハ事或ハ行政ニ關スルモノアルヲ以テ總テ之ヲ特別法令ニ讓ルコト諸外國ノ例ノ如クスルヲ可トシタルナリ

第十條

(理由) 一 既成法典人事編第二百三十二條ニハ禁治産ノ解止ヲ請求スルコトヲ得ル者ヲ列舉セリ然ルニ前ノ禁治産ノ宣告ヲ請求スルコトヲ得ルモノト小異アリ是レ聊カ其當ヲ得サルカ如レ蓋シ或事ヲ創始スルノ權利アルモノハ又之ヲ廢止スルコトヲ得ルヲ常トスルハ普通ノ原則ナリ而シテ改正案ニ據レ尤モ禁治産ヲ請求スルコトヲ得ル者ノ範圍ヲ擴メタルカ故ニ此等ノ者ヲ禁治産ノ解止ニ據ルニ前ノ禁治産ノ宣告ヲ請求スルコトヲ得ルモノトハ以テ足レリトスヘク又此等ノ者ハ尤モ禁治産ノ宣告ニ付キ利害ノ關係ヲ有スルコト同時ニ其解止ニ付テモ亦大ニ利害ノ關係ヲ有スルカ故ニ此等ノ者ニハ必ズ之ヲ請求スルコトヲ得ルモノトシハアルヘカラス

二 原文ノ第二項ハ當然言フヲ待タサルヲ以テ之ヲ除キタリ

第十一條

(理由) 本條ハ殆ト既成法典人事編第二百三十二條第一項ニ字句ヲ修正シテ施シタルニ過キズ唯原文ニ部、監者、アリシヲ監者、監者ト改メ必ズモ監ニシテ監ナルモノニ限ラス獨モ監者トハ皆准禁治産者トスルコトヲ得ルモノトシテ蓋シ既成法典ハ伊澳西諸國ノ法律及ヒ白國民法草案ニ於ケルカ如ク生來ノ監監者ニ限リ准禁治産者トスルノ精神ナルヘシト雖モ其分ノ理由ヲ察見シ難キノミナラス若シ監監者ニシテ然ラハ前者モ亦生來ノ前者ニ限ラサルヘカラス是レ普羅諸國ノ法律(普羅法)ニ監監者ト監者、監者ト聊カ其規定ヲ同シレシト雖モ其ノ後見ニ付スルハ則チ一ナリ及ヒ獨逸民法草案ニ改メ必ズモ監監者タルコトヲ要セサルモノトシタリ

第十二條

(理由) 一 既成法典ニハ保佐人ノ同意ヲ要スル行為ニ付テハ先ツ自治產未成年者ニ關スル法條ニ讓リ其自治產未成年者ニ關スル法條ニ於テハ又後見ニ關スル法條ニ讓レト雖モ後見ニ關シテハ頗ル改正ヲ要スルモノアルヲ信スルカ故ニ之ヲ註ニ明記スルヲ必要トセリ

二 既成法典人事編第百九十四條ニハ贈與ヲ爲スコトヲ言ハス財産取得編第三百五十六條ニハ財產
 譲渡ノ爲メ法律ノ要ムル方式ニ從フキコトヲ言ヘルヲ以テ不動産又ハ重要ナル動産ノ贈與ヲ爲ス
 ニハ準禁治産者ハ保佐人ノ同意ヲ經テ之ヲ爲スベキモノナルカ如シ然リト雖モ贈與ハ損失ノミ
 リテ毫モ利益ナキモノナルカ故ニ一切ノ場合ニ於テ保佐人ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルモノトスル
 可トシタリ

三 負擔ナキ贈與遺贈等ヲ受ケルハ未成年者猶且獨斷テ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトシカ故
 ニ準禁治産者カ獨斷ニテ之ヲ爲スコトヲ得ベキハ言フヲ得メサレナリ

四 既成法典ニハ一切保證ノ事ヲ言ハス蓋シレ亦保佐人ノ同意ヲ要スルモノトスル意ナラン然レ
 トモ之ヲ明白ニセザレハ疑ヲ招ク虞アルヲ以テ本案ニハ之ヲ明白ニセリ

五 原文ノ如ク保佐人ノ立會ト云フキハ保佐人必ス其席ニ在ルコトヲ要スルカ如ク見エテ不可ナ
 ルヲ以テ之ヲ同意ト改メタリ

六 既成法典財産編ニハ特別ノ方式ヲ要スル行為ニ付テハ若シ其方式ヲ踐マサルトキハ當然其行為
 ヲ取消スコトヲ得ルモ(附五四七二項)單ニ保佐人ノ同意ノミヲ要スル場合ニ於テ共同意ナクテ

テ其行為ヲ爲シタルトキハ餘損ニ因リテノミ之ヲ取消スコトヲ得ルモノトセリ(附五四八二項)
 然レトモ準禁治産者ノ行為ニ特別ノ方式ヲ必要トスルモノハ法典中之ヲ發見セズ日餘損ノ有無ヲ

別トハ困難ニシテ弊害ヲ生レ易キコトハ既ニ論シタルカ如シ(四)是レ本案ニ列舉セル行為ニ付キ

保佐人ノ同意ヲ得サレトキハ總テ之ヲ取消スコトヲ得ルモノトシタル所以ナリ但財産編ニハ前述
 ノ如ク規定セリト雖モ人事編第百二十四條ニハ第二百二十條ヲ適用シ其第二百二十條ニハ禁治産
 者カ當然其行為ヲ取消スコトヲ得ル旨ヲ規定セルヲ以テ人事編ノ規定ハ本案ト毫モ異ナル所ナキナ
 リ

七 既成法典人事編第百三十三條ノ如ク第二項ニ於テ管理行為ト曰フトキハ第一項ニハ一切管理
 行為ヲ包含セシ又處分行爲ハ皆之ヲ包含スルモノナリ如ク見ルモ是レ事實ニ反スルヲ以テ本文ノ如
 ク改メタリ

八 準禁治産者ノ爲シタル行為ハ原則トシテハ有效ナルカ故ニ保佐人ノ立會アルニ非サレハ管理行
 爲ヲ爲スコトヲ得スト曰フハ測力懸ナラザルヲ以テ保佐人ノ同意アルコトヲ要スト改メタリ

第十三條

(理由) 本條ハ既成法典人事編第百三十三條第二項及ヒ第百三十五條ニ該當ス然レトモ準禁治産
 ノ請求及ヒ取消ニ付テ禁治産ト其規定ヲ異ニスル理由ナキヲ以テ總テ禁治産ニ關スル規定ヲ準用ス
 ルコトトセリ

第十四條

(理由) 一 既成法典人事編第六十八條ニハ許可ヲ得ルニ非サレハ本案ノ事ヲ爲スコトヲ得スト云
 ルモ全ク得サルニ非ス後日之ヲ取消スコトヲ得ルノモ故ニ取消ヲ請フコトハ其行為有效ナリト謂ハ

七、同條ニ據ルハ元木ヲ領收スルニハ夫ノ許可ヲ要スルモ之ヲ利用スルニハ其許可ヲ要セザルモノトセリ然レト雖モ其利用ノ方法如何ニ依リテハ或ハ妻カ夫ニ對スル義務ヲ盡ササルモノト視ルヘキコトナリ保セシムルニ元木ノ利用モ其領收ト同レク夫ノ許可ヲ要スルモノトシタル所以ナリ
 三、遺産ノ重要ナルモノハ敢テ不動産ト其輕重ヲ異ニセス讓受モ亦讓渡ト同様ニ重要ナルモノト視ルヘキコトハ既ニ禁止治産者ニ付テ執レル所ノ主義ナリ(二二三號)
 四、既認ニ答辯スルハ其他條之ヲ提起スルニ毫モ異ナル所ナク其他訴訟行為ハ總テ依條多キモノナルヲ以テ禁止治産者ニ付テ規定セシ如ク妻モ既認行為ヲ爲スニハ常ニ夫ノ許可ヲ要スルモノトセリ(二二四號)

五、原文ニ於テハ贈與ヲ受諾スルニハ夫ノ許可ヲ要スルモノ之ヲ拒絕スルニハ其許可ヲ要セザルモノトセリ是レ一理ナキニ非ス何トナレハ贈與ハ夫ト一契約ニレテ受贈者ニ於テ之ヲ承諾スルマデハ未ダ成立セザルモノト視ルコトヲ得ザレハナリ然リト雖モ之ヲ拒絕スルモノ概シテ不利益ナルコトハ敢テ疑フ容レシムルニ夫ノ許可ヲ要スルモノト改メタル所以ナリ
 六、遺贈ノ受諾拒絕相續ノ承認拋棄ハ原文ニハ之ヲ妻カ夫カ夫ノ許可ヲ受ケル事項中ニ掲ケスト雖モ遺贈ヲ受タルハ其遺贈者ニ因リテハ或ハ之ヲ屑トセザルコトアリ又他人ノ家督又ハ遺産ヲ相續スルハ事頗ル重大ニ屬シ且財產上ニ於テ之ヲ相續人ノ爲メニ不利益ナルコトナレトセズ又遺贈ヲ拒絕シ相

續ヲ拋棄スルノ通常不利益ナルコトハ敢テ喋々ヲ待タズ是レ新ニ遺贈ノ受諾拒絕相續ノ承認拋棄ヲ加ヘタル所以ナリ
 七、之ヲ要スルニ本條ニ列舉スル行為ハ殆ト第十二條ニ列舉セザルモノニ同レ面シテ其全ク同レカラサル所以ノモノハ他ナレモ禁止治産者ハ其精神完全ナラサルヲ以テ專ラ之ニ不利益ナル行為ヲ爲サザラシメレトコトヲ謀ラシムルハアルヘカラス之ニ反シテ妻ハ其精神ノ不完全ナルカ故ニ無能力ナルニ非ス是ヲ以テ未婚ノ女子及ヒ寡婦ハ其能力ニ於テ男子ト異ナルナキヲ原則ニス唯有夫ノ婦ハ夫ニ順從スルノ義務アルカ故ニ行為ノ性質ニ依リ夫ノ許可ヲ受タルコトヲ要スルモノトシタルモノ是レ妻ト準禁止治産者ト聊カ異ナラサルコトヲ得ザル所以ナリ

第十五條

(理由) 既成民法ニハ此規定ナク商法ノミ之アリト雖モ事能力ニ關スルヲ以テ未成年者ノ例ニ倣ヒ此ニ之ヲ掲タルヲ妥當トス況ヤ是レ必スレモ商業ニ關セテ一切ノ職業ニ付テ皆同一ナルヘキニ於テヤ
 商法第十三條ニハ凡ソ商ニ爲ス妻ノ能力ヲ掲ケタリト雖モ一商取引ヲ爲スニ付テハ別ニ特例ヲ設ケタルノ間ハレナク唯商業其他ノ職業ヲ營ムル妻ノ能力ハ特ニ之ヲ規定スルノ理由アリ蓋レ一ノ職業殊ニ商業ヲ營ムル許可ヲ得タル妻ハ事苟モ其職業ニ關スル以上ハ每事夫ノ許可ヲ受ケテ始メテ之ヲ行フコトヲ得ルトセハ到底其職業ヲ營ムルコト能ハサルヘキ故ニ一旦其職業ヲ許セル以上ハ其當

然ノ結果トシテ其職業ニ關スル一切ノ行為ヲ爲スノ許可ヲ與ヘタルモノト觀サレコトヲ得サルナリ
是レ佛獨伊、白蘭澳、西瓊希(商五一項七)等ノ諸國ニ於テ併商業又ハ其他ノ職業ヲ欲メル妻ニ付
テノミ規定スル所以ナリ

第十六條

(理由) 一 既成法典人事編第六十九條ニハ夫ノ許可ハ、特定、ハ、總括、ナ、ル、コト、ヲ、得、ト云、ル、モ、レ、モ、レ、反
對ノ明文ナキ以上ハ言フヲ待マサル所ナリ佛蘭民法ノ如キハ特ニ管理行為ニ付テノ總括ノ許可
ヲ與フルコトヲ得ルト云ヘルニ因リ處分行為ニ付テハ之ヲ與フルコトヲ得サルナリ故ニ佛蘭ノ如
キ明文ヲ掲ケサレハ夫ノ許可ハ特定又ハ總括ナルコトヲ得ルハ自ラ明カナリ

二 同條ニハ總括ノ許可ハ、證書ヲ、以、テ、之、ヲ、與、フ、ル、コト、ヲ、要、ス、ト云ヘルモ夫婦間ニ證書ヲ授受スルカ
如キハ我輩國ニ之ヲキ所ニシテ苟モ其許可アリタル證據明カナル以上ハ必モ之ヲ證書ヲ要スルノ理
由アラザルナリ

第十七條

(理由) 一 既成法典人事編第七十條ニ夫、失踪、ノ、推、定、ヲ、受、ケ、タル、ト、キ、ハ、ト、ア、リ、タ、ル、夫、ノ、生、死、分、明、
ヲ、サ、ル、ト、キ、ト、改、メ、タ、ル、ハ、失、踪、ノ、推、定、ナル、語、ヲ、廣、シ、テ、カ、爲、メ、ナ、リ、尙、本、第、四、節、ニ、至、リ、テ、之、ヲ、詳、述、ス、ヘ

二 商法第十二條ニハ妻カ夫ニ遺棄セラレ又ハ夫ヨリ必要ノ給養ヲ受ケザルキハハ夫ノ承諾ヲ要セ

サルモノトセリ是レ至當ノ規定ニシテ會ニ商業ニ關シテモ之ヲ設クヘキニ非ス如何ナル行為ニモ
之ヲ適用スヘキカ如シ唯夫ヨリ必要ノ給養ヲ受ケザルキハ若シ夫ニ惡意アリシカハ是レ夫ニ遺棄セ
ラレタルナリ若シ夫ニ給養ヲ爲スノ資力ナクシカハ是レ夫ニ罪ナキカ故ニ猶本妻ヲテ之ニ順從セ
レシメシハアルヘカラス因テ本文ノ如ク改メナリ

三 前項ノ爲メ病院又ハ私宅ニ監置セラレル者ヲ以テ無能力者トセザルコトヲ言ヒ(九理由四)
面シテ夫ガ病院ノ爲メ病院又ハ私宅ニ監置セラレタルトハ妻ハ其許可ヲ受ケルコトヲ要セストセル
ハ頗ル前後矛盾セルニ似タリト雖モ妻カ夫ノ許可ヲ受ケルコトヲ要セザルハ必スシモ夫ノ無能力ナ
ル場合ニ限ラス唯實際ニ其許可ヲ受ケルコトヲ能ハサル場合ニ於テハ情之ヲ要セザルコトヲシタルナ

四 本條第五號及第七第六號ヲ加ヘタルハ實際ノ必要ヲ慮リテナリ

第十八條

(理由) 既成法典ニハ本條ノ規定ナシ故ニ未成年ノ夫ハ自己ノ爲メニハ本妻ノ獨斷ニテ重大ナル行為ヲ
爲スノ能力ヲ有セザルニ拘ハラズ其妻レハ之ヲ許可セルコトヲ得レシモ頗ル其當ヲ得サルモノア
リ蓋シ未成年者ハ本妻重大ノ行為ニ付キ十分ニ其利害得失ヲ辨識スルノ智能ヲ備ヘサル者ト認メテ
之ヲ無能力者トセルナリ然レモ自己ノ利害得失ハ之ヲ辨識スルノ智能ヲ備ヘサルモ他人ノ利害得失
ハ之ヲ辨識スルノ智能アリト曰フハ前後矛盾ナリ是レ白蘭法律ニ倣ヒ本條ノ規定ヲ設

ケタル所以ナリ(白濁法律ハ商業ニ關シテノ之ヲ規定スルト雖モ商業ニ他ノ行爲ヲ區別スル理
由ナキカ如シ)

第十九條

(理由) 本條ハ既成法典ニハ全ク之ヲ缺ケリ然レトモ其必要ナルコトハ多辯ヲ待タズシテ明カ
ナリ蓋シ既成法典ノ如クシハ相手方ハ無能力者ヲ能力者トナリタル後五年ヲ經過スルマデハ何時其
行爲ヲ取消ヲ請求セザルヤ計ルカラス其間其權利不確定ニシテ共者ノ不利益ハ勿論公益上亦斯
ク權利ヲ不確定ノ狀態ニ委スルハ策ヲ得ズルモ、ニ非ス故短期內ニ其行爲ヲ取消スル否ヤヲ確答
セシメテ以テ速ニ其權利ヲ確定スルコトヲ得セシムルヲ欲シタルナリ

第二十條

(理由) 本條ハ既成法典財產編第五百四十九條ニ字句ノ修正ヲ加ヘタルノモ

第三節 住所

(理由) 既成法典ニハ本籍ヲ以テ住所トスルノ主義ヲ執レリト雖モ所謂本籍ナルモノハ往々有名無實
ニシテ法律上ノ生活ヲ爲スノ地ト同シカラリルコト多シ是レ既成法典人事編第二百六十一條ニ例
外ヲ設ケ本籍地カ生計ノ主要タル地ト異ナルモ、ハ、主要地ヲ以テ住所ト爲スル所以ナラン
カ若シ然ラハ寧ろ例外ヲ以テ原固トシ生活ノ本據ヲ以テ住所ト定ムルノ主義ヲ執ルヲ以テ愈レリ
トス是レ本節改正ノ眼目ナリ

第二十一條

(理由) 本條ハ既成法典人事編第二百六十二條及第二百六十三條ヲ既ニ述ヘタル理由ニ依リテ改メ
タルナリ而シテ原文ニ民法上ノ住所トアリレバ單ニ住所ト改メタルハ凡テ改正法典ニ於テハ力メテ
民法中ニ公法ニ屬スル事項ヲ規定セザルノ主義ヲ執レルカ故ニ特ニ民法ト云々ト曰ハザルモ其公法
上ノモノヲ規定スルニアラザルコトハ明カナリ且此ニ住所ト曰ヘルモノハ純然タル民法トモナラス
商法民事訴訟法等ニ適用スヘキモノナルカ故ニ單ニ住所ト曰フヲ以テ優レリト信シタルハナ
リ
既成法典ニハ住所ヲ定メ又ハ移スニハ必ス之ヲ届出ツルコトヲ要スルモノトセリ是レ蓋シ從來ノ本
籍ヲ取りテ直チニ住所トスルトキハ或ハ必要ヲラント雖モ特ニ生活ノ本據ヲ以テ住所トスル以上ハ
敢テ届出ノ有無ヲ問ハス事ヲ事實上生活ノ本據ト爲レル地ヲ以テ住所トセザルヘカラス是レ人事編
第二百六十三條第一項、第二百六十四條第一項及第二百六十五條ヲ削除シタル所以ナリ
既成法典人事編第二百六十二條第二項及第二百六十四條第二項ヲ削除シタル所以ハ未成業者ノ住
所ニ付テハ親族編中親權及後見ノ部ニ於テ之ヲ規定スヘキモノト信シタルヲ以テナリ

第二十二條

(理由) 本條ハ既成法典人事編第二百六十七條第一號ニ同シテ其第一號ヲ分チテ次條ヲ設ケタル
所以ハ日本ニ住所ヲ定ムル外國人ニ關シテハ必ス之モ其居所ヲ以テ住所ニ代用スルコトヲ得サル

第二十二條

(理由) 本條ハ既成法典人事編第二百六十七條第二號ニ左ノ增補改正ヲ加ヘタルモノナリ

一 法例第八條ニ據レハ本國法ノ適用ヲ呼ビ、諸般ノ場合、於テ何レハ國民ノ分限ヲモ有セサル者又ハ地方、依リ、法律ヲ異ニスル國ノ人民ハ其住所ノ法律ニ從フヘキモノトセリ而シテ此住所ト云フハ日本又ハ外國ニ於テ其者ノ有スル住所ナルコト疑ハカラス若シ然ラスレバ此場合ニモ亦既成法典人事編第二百六十七條ヲ適用スヘキモノトセハ常ニ日本ノ法律ニ依ヘキモノトナルガ故ナリ

二 住進ナル住所ノ法律ニ從フテ語ヲ用ユルノ理ナシ是レ本條但書ニ必要トシタル所以ナリ

三 原文ニハ單ニ左ノ場合ニ於テハ住所ヲ以テ住所ノ代用スル日本ノ住所ノ定ムル外國人ニ關スルモノト曰ヘルヲ以テ其居所外國ニ在ルモノ若シ本居所ヲ以テ住所ノ代用スヘキモノノ如ク是レ日本ニ於テアルノ數文字ヲ加ヘタル所以ナリ

第二十四條

(理由) 本條ハ既成法典人事編第二百六十八條ニ些少ノ修正ヲ加ヘタルモノナリ而シテ原文ノ但書ヲ除キタル理由ハ苟キ當事者ノ意思ニシテ明瞭ナル以上ハ必ズシモ書面ヲ要スルノ理ナキヲ以テナリ

他ノ字句ノ修正ニ過キス

第四節 失踪

(理由) 既成法典ニ據レハ何人ニテモ生死ノ分明ナラザルコト十五年又ハ七年ニ至ルマデハ通常其者ヲ生存セザルモノト看做シ單ニ其財產ヲ管理セシムルニ止メ五年又ハ七年ヲ經過スルモノキハ殆ト之ヲ死亡セザルモノト同一視シ其死亡ニ因リテ權利ヲ得ヘキモノヲ保護スルト雖モ猶ホ幾分失踪者ヲ保護スルノ規定ナキニ非ズ今之ヲ從來ノ慣例ニ稱シ又之ヲ一般ノ法理ニ照スニ聊カ其當ヲ得サルモノアルカ如ク蓋シ失踪ノ宣告アルマデハ專ラ不在者ヲ保護スヘキハ論ヲ俟ヌト雖モ一旦失踪ヲ宣告スル以上ハ全ク之ヲ死亡セザルモノト看做シ敢テ利害關係人ヲシテ不確定ノ狀態ニ在ラシメサルコトヲ要ス唯此確定ヲ下メス以上ハ幾分其年限ヲ延長シ以テ失踪者ノ保護スルノ必要ヲ發生ス但生死ノ不明ヲ以テ離婚ノ原因ト爲スカ如キ從來既ニ慣行セラル所ニシテ而モ其期限ニ至リテハ離婚前ハ僅ク數月ノ後之ヲ許スノ慣例尠カラザリカ如ク民事慣例彙集八二頁以下離婚後三至リテモ滿三年ノ後又事情ニ因リテハ是ヨリモ早ク離婚ヲ許セカ故ニ法例彙編初版四〇九頁以下第二版一九〇頁以下第三版一三七頁以下等ニ失踪ノ宣告前ニ之ヲ許スニ非サレハ頗ル舊慣ノ性ルノ處アルヘシ猶ホ此等ノ事ハ親族編ニ至リテ規定スヘキ所ナリ

第二十五條

(理由) 一 本條ノ規定ノ所以ハ他ナシ不在者ノ財產ハ動モスレハ朽腐消失ノ虞アルヲ以テ之ヲシテ力メテ適當ノ管理ヲ得セシメント欲メタナリ故ニ敢テ其本人ノ生死ノ分明ナラザルコトニ論ナラ裁判所ヲシテ必要ナル處分ヲ命ズルコトヲ得セシメシハアルヘカラス是レ既成法典人

事編第二百七十一條ニ於テ失踪ハ推定ヲ受ケズル者ノ財産ニ付テ管理人ヲ指定セシムルト同時ニ其第二百八十八條ニ於テ未ダ失踪ノ推定ヲ受ケサル者ノ財産ニ付テ必要ノ保存處分ヲ命セシムル所以ナリ而レテ之ヲ一條ニ總括シテ本文ノ如ク規定スルヲ以テ前且明アリト信セラルナリ

二原文ニハ住所及ビ居所ヨリ亡失又ハ住所若クハ居所ヲ去ルル云ヘリ然レトモ改定案ニ於テハ各人ノ生活ノ本據ヲ以テ住所トシタルカ故ニ從來住所ヲ去リテ新ニ住所ヲ定ムタルヤモ知ルヘカラス況ヤ居所ニ至リテハ實際之ナキコトハ稀ナルヲヤ是レ從來ナル文字ヲ加ヘタル所以ナリ
三原文ニハ區裁判所トアリタルヲ單ニ裁判所ト改メタル所以ハ他ナレバ裁判所ノ權限ハ或ハ之ヲ變更スルノ必要ヲ生スルコトアルヘキカ故ニ特別法又ハ民法施行條目中ニ其裁判所ノ種類ヲ定メ民法中ニハ之ヲ定メサルヲ可トシテハナリ(七理由三ノ參照セ)

第二十六條

(理由) 一 既成法典人事編第二百七十條ニハ代理人ハ失踪ハ推定中木人ノ財産ヲ管理ストアリタルモ代理人ノ權限ハ特ニ期限ヲ定メサルトキハ通常委任者又ハ代理人ノ死亡ニ至ルマデ繼續スヘキモノレテ今失踪ハ推定ヲ受ケタル者ハ生死未ダ判然セス而レテ死亡ニ因リテ權限消滅シタリト主張スル者ハ先ク其死亡ヲ證明セサルヘカラス故ニ其死亡ヲ判然スルマデハ代理人ノ權限繼續スヘキハ言フヲ待タズ又特ニ期限ヲ定メタルトキハ其期限ノ到来ニ因リテ其權限消滅スヘキハ勿論ナリ故ニ必スシモ失踪ハ推定中木人ノ財産ヲ管理スト曰フコトヲ得ズ是レ石ト數字ヲ削除シタル所以ナリ

二原文ニハ現實ノ利益ヲ有スル關係人トアリタルヲ單ニ利害關係人ト改メタルハ他ナレ利害關係人ト云ハ通常ハ現實ノ利益ヲ有スル者ヲ指シ而モ推定繼續人ノ如クハ現實ノ利益ヲ有セズト雖モ其中ニ包含スヘキヲ以テナリ
三原文ニハ代理人ノ辭任ヲ言渡シ又ハ其後任ヲ指定スルコトヲ得トアリタルヲ管理人ヲ改メタルコトヲ得ト改メタルハ原文ニ據レハ單ニ之ヲ辭任スルヲ以テ後任者ヲ選定セサルコトヲ得ルモノノ如ク見ユラ不可ナルト管理人ノ權限消滅シタルニ因リ其後任者ヲ選定スル場合ハ既ニ前條ニ之ヲ規定シタルトニ因ル

第二十七條

(理由) 一 既成法典人事編第二百七十三條ニハ動産及ビ證書ノ目録ヲ調製ス可シ又ハ不動産ノ形狀ヲ確定シシムル爲メ鑑定人ノ選定ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得鑑定人ノ報告書ハ裁判所ノ認可ニ付スルコトヲ要ス又ト云ヘリ然レトモ是等ハ皆手續ニ屬スル規定ニシテ現明明治二十二年十月三法律第九十五號非訟事件手續法第四十二條ニ類似ニ規定アリ唯既成法典ハ不動産ニ付テ鑑定人ヲ選定スルコトヲ言ヒ非訟事件手續法ニハ之ヲ言ハサルヲ要アルモノ然リト雖モ何事故ニ不動産ニ鑑定ヲ要ス動産ニハ之ヲ要セサルヤ願ル所ナリ又何カ故ニ他ノ場合ニ於テハ之ヲ要セサルニ此場合ニ於テニ鑑定ヲ要スルヤ是亦其理由ヲ發見スルコト能ハサルナリ因テ改正案ニハ單ニ財産ノ目録ヲ調製スヘシト爲シタリ

二、第三項ヲ附加シタル所以ハ他ナシ管理人カ金錢ヲ受取リタルトキ其適當ノ處分ヲ命ジ其他時時計算書ヲ提出シシムル等財産ノ保存ニ付キ終始裁判所ニ於テ監督指揮ヲ爲スニ非サレバ管理人動モスレハ奸曲又ハ怠慢ノ所爲ナキヲ保セシムルニ雖モ範圍ニ於ケルカ如ク其命令ニキ處分ヲ列舉スルトキハ備ハ失レテ一切ノ必要處分ヲ包含セサルニ非サレハ必ズ煩冗雜雜ニ涉ルノ虞アリ而モ獨澳瑣等ノ諸國ニ於ケルカ如ク或ハ不在者ヲ後見ニ付シ或ハ之ニ後見ノ規則ヲ適用スルハ聊カ鄭重ニ失スルカ如ク是レ本文第三項ヲ以テ包攝ノ規定ヲ設ケ裁判所ヲシテ時宜ニ從ヒ最モ恰當ノ處分ヲ施スコトヲ得セシメント欲シタル所以ナリ

第二十八條

(理由) 既成法典ノ事編第二百七十二條第二項ノ規定ヲ削除シタルハ他ナシ其規定中ニ掲ケタル行為ハ當然管理行為中ニ包含セラルモノト信シタムヲ以テナリ但本案ニ於テハ管理行為ノ文字ヲ用ヒスレテ後ノ第百三條ニ定ムル權限トセリ
改正案ニハ既成法典ノ事編第二百七十一條ニ於ケルカ如ク必ズ裁判所ニ於テ管理人ヲ選定スヘキコトヲ言ハス突然管理人ノ權限ヲ規定スルハ或ハ其當ヲ得サルカ可疑者アリ然レトモ財産ノ管理ニ付キ必要ノ處分(二五)云ヘハ通常管理人ヲ選定スルヲ以テ第一著ト爲スハ論ヲ俟タズ又舊ニ別ニ管理人ヲ選定スル必要ヲキコトモアラン故ニ必ズレモ管理人ヲ選定スヘキコトヲ言ハス裁判所ヲシテ便宜ノ處置ヲ爲サシメント欲シタルナリ殊ニ原文ニハ成ル可ク推定相續人ヲ以テ管理人ト

スヘキコトヲ言ヘルモ失餘ノ宣言アルマツテハ不在者ヲ以テ未ダ死亡セサル者ト看做サルルヘカガザルカ故ニ必ズレモ推定相續人ヲシテ財産ヲ管理シシムルコトヲ要セシムル最モ適任ノ人ヲ選ビテ之ヲ管理シシムルヘキコトヲ法典編纂者モ敢テ之ヲ悟ラサルニ非ケルカ成ルヘバナナル語ヲ用弁事然リト雖モ法文ニハ右標ノ曖昧ナル文字ハ力メテ之ヲ避ケキカ故ニ寧ろ其全文ヲ削除スルノ愈レルニ如キスト信シタルナリ

既成法典ノ事編第二百七十五條ニ之ヲ削除セリ其理由由一則條ニ規定セル事項ハ世管理行為外ヲ行爲ニシレバ本文第一項但書ノ場合ニ該當ス然レバ此場合ニ於テハ必ズ裁判所ノ許可ヲ要スルモノトセルカ故ニ別ニ此ノ如ク法文ヲ要セサルナリ

第二十九條

(理由) 本條ハ既成法典ノ事編第二百七十四條ニ些少ノ修正ヲ加ヘタルモノナリ其要點左ノ如シ
一、原文ニハ擔保トシテ保護ノ其他相當ノ擔保ヲ立デシムルコトヲ得トアリタルモノモ擔保ノ種類ハ一ニ裁判官ノ專斷ニ委スルカ又ハ民事訴訟法其他ノ手續法中ニ規定スルモノナリト信スルヲ以テ單ニ擔保ト改メタリ

二、原文ニハ管理人ハ推定相續人ヲ除ク外其請求ニ因リハ裁判所ノ決定ニ依リ給付受クトアリタルモノト推定相續人中ヨリ管理人ヲ選ブノ主義ヲ改メタル以上ハ特ニ推定相續人就テ言フハ其當ヲ得サルモノミナラス假令推定相續人ナラサルモ子カ父ノ財産ヲ管理シ或ハ子ノ財産ヲ管理スルカ如キ

ハ別ニ給料ヲ與フルニ必要ナキヲ知シ是レ裁判官ヲレテ十分事情ヲ斟酌シテ給料ヲ與フルト否トヲ定ムルコトヲ得セシメント欲スル所以ナリ

第三十條

(理由) 夫條ハ既成法典人事編第二百七十六條ニ種重要ナル修正ヲ加ヘタルモノナリ其要點左ノ如

一 原文ニハ不在者ヲ代理人ヲ定ム置カサルト之ヲ定ム置カザリトニ因リ年限ニ違等ヲ設ケルト雖モ代理人ヲ定ム置クト之ヲ定ム置カサルトハ多クハ偶然ノ事實ニシテ忽チ死亡スハキトキハ代理人ヲ定ム置カス長ク生存スヘキトキハ代理人ヲ定ム置クモノト斷定シ難キカ知レ故ニ此差等ヲ廢レタリ

二 原文ニハ右ノ區別ニ依リ五年又ハ七年ノ後失踪ノ宣告ヲ請求スルコトヲ得ルモノトセリ然リト雖モ既ニ條首ニ述ヘタルカ如ク失踪ノ宣告ヲ以テ死亡ニ等シキ效力ヲ生スヘキモノトスル以上ハ遠ク海外ニ旅行スル者多キ今日ニ在リテハ五年乃至七年ハ通常ノ場合ニ於テハ明カ短期ニ失スルノ狀ナキニ非ズ故二十年ト改メタリ

三 然レトモ右ノ通常ノ場合ニ就テ論ジタルモノニシテ本又第二項ノ場合ニ於テハ殊ニ死亡ヲ規定スルノ理由アルヲ以テ五年ニ七年猶ホ且テ其長キヲ覺ス故ニ之ヲ三年ニ短縮シタリ

四 原文ニハ失踪者ハ死亡ニ因リテ發生スル權利ハ其財產上ノ有スル者ニ限り失踪ノ宣告ヲ請求ス

ルコトヲ得ルモノトセリ然リト雖モ管理人債權者等ハ失踪ノ宣告ニ付テ正當ノ利益ヲ有スルコトアルヲ以テ此等ノ者ニモ亦失踪ノ宣告ヲ請求スルコトヲ得セシムルヲ吾輩トス是レ汎ク利害關係ノト改メタル所以ナリ

五 原文ニハ失踪者ノ住所ノ區數對所ニ請求スヘキコトヲ規定スルト雖モ既ニ條首ニ述ヘタルカ如ク

(七理由由三二五理由由三) 此等ノ手續ニ關スル事ハ民法中ニ掲ケサルヲ可トスルヲ以テ之ヲ省キタ

六 人事編第三百七十七條乃至第三百七十九條ヲ削除シタル理由ハ是レ舊手續ニ關スル規定ニシテ多クハ明治二十三年十月三日法律第九十五號非訟事件手續法第四條乃至第九條ノ規定ニ相重複セルヲ以テナリ蓋シ右ノ法律ニ未タ足ラサル所ノモノアラハ之ヲ稱ヒテ可キ何ツ之ヲ民法中ニ規定スルコトヲ要センヤ

第三十一條

(理由) 一 既成法典ニ據レハ失踪ノ宣告ハ未ダ失踪者ヲ死亡シタル者ニ看做サレシムルノ效力ヲ生ズサルモノトセリ是レ佛伊蘭ニ死亡ノ推定ニ關スルモノ文字ヲ用ユルニ雖モ其效力ニ至リテハ毫シ我方法典ノ規定ニ異ナルコトナシ民法白國民法草案等ノ土著トスル所ノ依レルナリ然リト雖モ一面ハ生著ノ如ク一面ハ死者ノ如ク中間ノ位置ニ在ル者ハ其權利極メテ不確定ニシテ疑フ他人ノ權利ニマテ其不確定ノ結果ヲ及ボスニ至ラズ故ニ獨逸瑞西等ノ諸國ニ般ニ失踪者ハ反對ノ

證據出フルマテハ死者ト看做スヲ可トシタルナリ(此ニ援引セラルル國々ノ法律ニ於テモ或ハ單ニ相續ニ付テノミ失除者ヲ死者ト觀ルモノナキニ非スト雖モ是亦事理ニ合ハス且實際ニ便ヲラサルヲ以テ今之ヲ取テス)

二 既成法典ニ據レハハノ生れ死ニ付テハ必ス確證ヲ要スルノ主義ヲ執リ失除者ハ幾分カ死者ニ近キ取扱ヲ受ケルト雖モ失除ノ宣告前ニ不在者ヲ以テ生者ト看做スルモ其ノ時ニ生存スル者ノ限リ某ノ權利ヲ有スヘキ場合ニ於テハ寧ロ之ヲ死者ノ如ク取扱フヘキトモセリ(如ク失除ノ宣告前既ニ不在者ノ權利ヲ認メス失除ノ宣告後猶モ他ノ利害關係人ノ權利ヲ認メス初メニハ死セルカ如ク後ニハ却テ生ケルカ如ク初メニハ他ノ利害關係人ノ權利ヲ認メテ後ニハ却テ死セリト認メサルハ甚モ事理ニ合ハス今之ヲ改メテ失除ノ年限マテハ不在者ヲ生者ト看做シ其後ハ之ヲ死者ト看做シ以テ權利ノ所在ヲ明カニセリ

三 既成法典ニテモ失除ノ宣告アレトキハ失除者ノ亡失又ハ最後音信ノ日ニ於ケル推定相續人其他失除者ノ死亡ニ因リテ發生スル權利ハ其財產上ニ存スル者ニ直チニ其財產ヲ占有スルコトヲ得ルモノトセリ(八二八〇二項)蓋シ佛伊此等ノ國ニ於テハ失除ノ宣告カ直チニ右ノ效力ヲ生スルニ非スト雖モ今頗ヲ恐レテ敢テ説カズ爾等ノ法律及ヒ白國民法草案 規定做ヘルナリ然リト雖モ亡失ノ日又ハ最後音信ノ日ニ其者カ死亡セリト推測スヘキ場合ニ極メテ種ナルレ然ラズレハ何ヲ以テ亡失後又ハ最後音信後數年ヲ待チテ始メテ其失除ノ宣告セルカ恰モ亡失後又ハ最後音信後數

年ヲ經テ歸來シ又ハ其生存セル證據分明トナルコト多キカ故ニ數年ヲ待チテ始メテ其失除ヲ宣告セシムルニ非ス然ラハ則チ何レノ時ヲ以テ死亡シタルモノト看做スヘキカ此點ニ關シテハ右ノ佛法ノ主義ノ外澳西國民法ニハ明カニ某日ヲ以テ死亡ノ日ト看做スト曰ハス唯死亡ノ推定ノ判決確定スルトキハ相續開始スヘキコトヲ言フルニ因リ少ク相續ニ付テハ右ノ判決確定ノ日ヲ以テ死亡ノ日ト看做シタルモノト謂ハサルヲ得ス又西國民法ニ於テモ佛伊等ニ於ケルカ如ク失除ノ宣告ハ未ダ右ノ效力ヲ生セサルモノトシ其後以テ死亡ノ推定 Presumption de mortu naloモノヲ宣告セシムルナリ) グラウブン シンデ 普蘭西 巴威爾 其他數多ノ 獨逸聯邦 (Mitte zum unabhängigen Österreich für die Deutsche Reich, I. S. 13) 法律及ヒ獨逸民法一讀會草案(二)ノ如ク失除宣告ノ日又ハ其宣告カ確定シタル日ニ死亡シタルモノト看做スアリ又兼テフョーリヒ(フョーリヒニ於ケル)生れ死不明ナルコト十五年間ハ仍ホ生者ト看做シ其後十五年間ハ生れ死全ク不明ナル者ト看做シ其後ニ至リテ始メテ死者ト看做スナリ)ノ民法及ヒ獨逸民法一讀會草案 如ク法律ニ定ムル期間満了ノ日ニ死亡シタルモノト看做スアリ(尙ホ右ノ外公示催告期間満了ノ日ヲ以テ死亡ノ日ト看做スノ國アリト雖モ其據ル所據ルテ滿期アルヲ要スルカ故ニ今之ヲ略ス Motive zum Bürgerlichen Gesetzbuch für das Deutsche Reich, I. S. 13) 面シテ此後者最モ正當ヲ得ルモノ似テ蓋シ裁判所ニ於テ失除ヲ宣告スルニ當リ苟モ生れ死不明ナルコト十年ニ國々年數 同シカラス又改正案ニ於テモ場合ニ因リ十年ナラサルコトアリ)ニ連スルノ事實アレハ必ス之ヲ宣告セサルコトヲ得サルナリ故ニ失除者ヲ以テ

死者ト親レハ其宣告アルニ因テ曰フト雖モ其宣告ノ法律ニ定ムル事實アルニ因テリト謂ハ
 サルコト得ヌ是ニ由リテ之ヲ觀レハ其法律ニ定ムル事實ノ生セシメ時ヲ以テ死亡ノ時ト見ルモ理
 ノ當然ナルカ如ク殊ニ失踪ノ宣告ナルモノハ利害關係人ノ速ニ之ヲ請求スルコト否ト又法官ノ其宣告
 ツ意ト否トニ因リ其日ヲ同シテウセス爲ニ相續其他ノ權利ヲ得ル者ヲ異ニスルカ如キコトアリハ
 豈ニ之ヲ不公平ト謂ハサルヘケシヤ況ニ救済ナル利害關係人ハ失踪ノ宣告カ已ニ不利益ナル間ハ力
 メテ其事實ヲ隱蔽シ已ニ利益アルニ至ルキハ速カニ之ヲ請求シ又他人カ之ヲ請求スルニ力アリ若
 シ已ニ不利益ナルトキハ虚偽ノ事證ヲ作爲シテ一時其宣告ヲ延引セシメ已ニ利益アルヲ待チテ之ヲ
 宣告セシムルカ如キ詐欺ヲ行フコトナキヲ保セザルヲ或ハ曰フ失踪ノ宣告ノ效力法律ニ定ムル
 期間滿了ノ時ニ過ルキハ其當時何人カ相續人タルヘキ權利ヲ有セシカ又失踪者ノ終身間享有スヘ
 キ權利ニ付テハ幾年間不當ニ之ヲ享有セシカ等種々煩雜ナル問題ヲ惹起スヘレ而シテ事既ニ數年方
 至十數年ノ前ニ係ルキハ之ヲ調査スルコト極メテ難カヘレ然リト雖モ此不便宜ヲ以テ前ノ便益
 ニ比レハ利害相償ヒテ猶ホ餘リアルカ如シ

第三十二條

(理由) 一 既成法典ニハ失踪ノ宣告ヲ以テ生死ノ分界ヲ示スモノトセザルカ故ニ失踪者カ後日ニ至
 リ現出シタル場合ニ付テハ細ニ規定スル所アリト雖モ失踪者ノ死亡シタル時ニ付テハ正確ナル音信ヲ
 得ルニ場合ニ關シテハ毫モ直捷ニ規定スル所ナシ今失踪ノ宣告ニ由リテ假ニ死亡シタル時ヲ定ムルカ故

ニ若シ失踪者カ之ト異ナリタル時ニ死亡シタル確證ヲ得ストキハ其事實カ如何ナル效力ヲ失踪者ノ
 親族ト又ハ財産上ノ關係ニ及ボスカヲ規定セザルヘカラス

二 既成法典ニ於テハ失踪者カ後日ニ至リ現出シタル場合ニ付キ其現出ノ事實アリト因リ失踪ノ宣
 告ハ其效力ヲ失フヘキモノトセリト雖モ是レ聊カ不確實タルヲ免レサレヲ以テ本案ニ於テハ特ニ裁
 判所ノ取消ヲ必要トセリ且既成法典ハ單ニ財産ニ付テノ規定ニ毫モ親族上ノ關係ニ付テ規定スル
 所ナシ故ニ人事編第二百八十二條第一項ニ因リ失踪ニ基ケル離婚モ失踪者カ後日現出スルト同時ニ
 其效力ヲ失ヒ其婦人ハ更ニ失踪者ノ妻ニ充當ヲ回復シ他人ト再婚セザル場合ニ於
 テハ其再婚モ亦自ラ無効ニ歸スヘキカ如シ是レ頗ル妥當ヲ缺ク不慮ヲ免レズ故ニ本案ニ於テハ一切
 ノ行爲ニ付テ失踪ノ取消其效力ヲ既往ニ及ボサザルノ原則キレリ

三 既成法典ニ據レハ失踪者後日ニ至リ現出シタルトキハ失踪ノ宣告ニ依リ財産ヲ占有スル者ハ現
 在ノ債ニテ其財産ノ元本ヲ返還シ猶ホ既ニ處分シタル財産ニ付テハ單ニ之ニ由リテ不當ニ取リタル
 利得ノモノヲ返還スヘキモノ人二八二二項ニ其果實ニ付テハ生死不分明ナルコト十年ニ及ブマデハ必
 ス其五分ノ一ヲ失踪者ニ返還セザルヘカラス人二八二三是レ聊カ權衡ヲ得サルモノカ如シ故ニ
 寧ろ元本ト果實トヲ分メ凡ソ占有者カ現ニ利得スル所ノモノハ之ヲ返還スヘシ其他ハ一切之ヲ返
 還スルコトヲ要モスト改メテ蓋シ占有者ノ裁判所ニ於テ不在者ノ失踪ヲ宣告シタルニ因リ失踪者
 タ以テ死者ナリト信シ其財産ヲ正當ニ獲リト思惟レ總シ其所有者タルノ考慮ヲ以テ之ヲ處分セシ